

令和4年度 社会福祉法人桐生会
高齢者総合福祉施設 桐生園 事業報告

1. 事業総括

令和4年度も引き続き感染予防対策を最重点課題として、日常対策等に万全を期して参りました。特養個室や、デイサービスセンターにおいてクラスターが発生しましたが、令和4年11月以降は過去の経験を生かし蔓延防止対策や検査体制を強化したことによって感染を発生させることはありませんでした。

令和4年度は桐生園の事業稼働を再検証し、デイサービスサテライトなのはなの事業廃止や、ショートステイ事業の見直しによって令和5年度へ向けて低迷脱出が実現できるよう立て直しを図りました。

また、施設にとっての中心的役割を担う多職種連携室の人材を充実し、入所事業及び在宅事業が連携して事業推進が図れる体制づくりに取り組みました。

介護人材の確保に関しては、7月より中国からの技能実習生2名を受け入れ、夜勤業務につくところまで業務指導の充実に取り組みました。この経験を生かし令和5年度も引き続き、4月よりインドネシアからの特定技能実習生2名をはじめ、外国籍の人材計7名の受け入れを予定しております。

2. 重点実施項目

(1) ご利用者の QOL (生活の質) の向上

①感染対策

感染症蔓延防止対策として、コロナ感染が疑われる場合は抗原検査をはじめ、県の外部機関におけるPCR検査を早期に実施し、感染者の全体把握・早期発見に努めました。協力医療機関の感染症認定看護師を講師に招く研修企画を進めましたが、社会情勢により病院からの講師派遣が困難となりました。しかしながら令和5年度に研修企画を実現し職員教育並びに感染症対策の充実へ向け継続してまいります。

②リスクマネジメント

課題として掲げた、「事故発生後の速やかな事故検証を実施すること」で再発防止対策の充実を行ってまいりました。また、事故報告書の速やかな作成と行政への報告に関して委員会で徹底し、部署責任者とも連携した中で取り組みました。今後は、ヒヤリハット報告書の分析と事故予防策の充実により、事故件数を減らすことを目標と致します。

事業継続計画 (BCP) において、感染症発生に関する計画書は完成させ、災害等に関する計画も次年度完成に向けて継続して進めております。

③コンプライアンスの徹底

遵守すべき法律 (介護保険法等) に従い、適切な事業運営に努めるために基本的なサービスの実施や、加算算定における自己点検を法令遵守責任者と管理者が連携し、職員・施設全体が法令遵守の意識を常に持ちより良いサービス提供を目指してまいりました。

(2) 職員の育成と人材確保

①職員教育

採用入職時に管理職によって施設理念や人権、事故、感染等における研修内容を充実致しました。各部署においては、責任者を中心に OJT による教育重点を置き人材育成を行ってまいりました。技能実習生の教育指導においては、言葉の壁もあり、配属部署を超えて情報交換をしつつ指導・教育に取り組みました。今後は特定技能実習生の指導・教育も同時並行となることから、経験を生かし教育指導チェックシート等により更なる人材育成に努めます。

②研修体系の整備

研修担当職員より、該当部署に研修内容の情報発信を行い、職員の学びの機会の確保に務めてました。令和4年度は、オンラインでの受講が中心となりましたが認知症研修や人権研修、大津市開催のセミナー等の受講を薦めました。また、施設内研修は集合型研修を中心に開催し、感染症対策研修をはじめ実技を組み込み取り組みました。今後は、職員の内外研修参加率を向上するように努めます。

③人材確保

就職フェア等で魅力ある職場を PR する資料を充実し、新たな求人サイトの活用に取り組みました。求職者からの直接応募や派遣会社等からの紹介により介護職員4名の採用に至りました。技能実習生制度を利用した中国籍の介護職員2名を受入れ、介護職員数を確保に努めました。今後も介護人材不足が見込まれるため、人材確保と定着に関して努めてまいります。

(2) 安定的経営基盤の確保

①特養入居稼働率の向上

日々のご利用者の健康状態の変化に気を配り、体調不良者の早期発見・早期対応に努め、配置医とも連携したことにより、入院者数は昨年度実績(69件⇒52件=-17件)を下回ることができました。また、待機者の情報収集の強化と次期入所予定者の早期面接や、待機者のショート利用の促し、スムーズな入所の実現に努め、空床日数は昨年度実績(一人平均15.9日⇒12.2日=-3.7日)より短縮いたしました。今後は、空床日数を7日以内にできるように努めます。

②ショートステイ稼働率の向上

ショートステイ担当職員の人事異動により体制を強化し、居宅介護支援事業所との密接な関係構築や、介護現場においてもご利用者やご家族の思いに寄り添ったケアサービス提供に努めつつ、特養入居待ちの方のロング利用の促しも行いました。事業所訪問をはじめ、毎月ショートステイでの取り組みに関する情報発信を行うことで、新規利用者が昨年度実績(12名⇒40名/年間)を上回る利用者数を獲得できました。

③ デイサービス稼働率の向上

各居宅介護支援事業所や、民生委員等との連携強化を図るべく、桐生居宅の管理者をデイサービス管理者として配置し、関係者との連携強化を図り、新規利用者数は昨年度実績（5名⇒23名）を上回る利用者数を獲得できました。しかし、サテライトのなのはなは、稼働の低迷に加えて建物の賃貸契約更新が困難となり9月末に閉鎖し、約17年6カ月の歴史に幕を下ろしました。

(3) 地域との連携・貢献活動の推進

① 地域との関係性を深める

青山学区の独居高齢者を対象とした鍵預かり事業の継続、デイサービスは学区の民生委員が主催の催し物に職員派遣を行いました。また、より身近な桐生町との連携を充実するため、桐生町シニアクラブの環境整備活動へ年4回参加し、関係性の構築に努めました。桐生自治会長と一時避難所の備品保管について相談させていただいております。

② 地域防災の連携

桐生園の消防訓練に学区の防災会長に参加していただき、地域連携の再確認を行いました。また、青山学区で開催された防災勉強会へ職員が参加し、地元で災害発生時の知識等を学ぶことが出来ました。

3. 事業稼働実績（R4年4月～R5年3月）

事業名	定員	年間延利用者数	年間稼働率
特養（多床室）	103名	36,167名	96.2%
特養（個室ユニット）	44名	15,383名	95.8%
短期入所生活介護	10名	2,355名	64.5%
通所介護（本体）	25名	4,837名	63.0%
通所介護（なのはな）	10名	542名	34.6%
認知症対応型生活介護	18名	6,459名	98.3%
訪問介護	—	3,389名	—
居宅介護支援事業所	—	1,409名	—

4. その他（令和5年3月31日現在）

正職員数	準職員数	派遣職員数（その他含む）	合計
74名	48名	17名	139名

令和4年度 社会福祉法人桐生会

特別養護老人ホーム夕照たまのうら・夕照たまのうらショートステイ 事業報告

1. 運営総括・方針

高齢者福祉サービスの多様化が進む中、社会福祉法人の果たすべき役割を十分認識し、より時代の要請に合った質の高いサービスを提供する施設を目指して、介護人材の確保並びに育成に努めてきました。まだ道半ばではありますが、人材確保が非常に厳しくなっている今日において、職員紹介等で人材が得られているのは喜ばしい事であり、今後職員が少しでも働き甲斐の持てる職場環境を整え、お一人お一人に合った質の高いサービスの提供が出来る様に努めます。

2. 重点実施項目

(1) ご入居者の QOL (生活の質) の向上

①安心感のある生活空間 を目指して

・サービス向上委員会を中心に、認知症ケアの学びを柱にして、常に、ご入居者、ご利用者に安心感を与えるようなケアの提供に努めてきましたが、まだまだ十分とは言えず今後も継続して認知症ケアの学びを深めていきます。

②基本的ケア (4大ケア) の見直し

・食事は温かく、ご本人の嗜好に合った物を提供出来る様に配慮すると共に、ミールラウンドやカンファレンスを利用し、食事の安全性にも留意して誤嚥性肺炎等の予防に努めています。

・心地よく排泄が出来る様に、可能な方は、1日1回トイレ誘導に努めています。

・移乗はリフターを使用して、ご本人、職員の負担軽減を図る為、2台のリフトの導入を予定していましたが補助金の選に漏れた為、今後導入する予定です。

・入浴は、ご入居者にとってほっと出来る時間として大切にしており、ご本人様のペースに合わせて入浴して頂いています。

③安眠ケアの実現に向けて

・滋賀県の補助金の活用により、離床センサーの導入をし、個々に応じた夜間帯のケア介入時間の検討を行っています。転倒リスクの高い方に対しては、離床センサーの活用により起き上がり時から素早く対応できる為、転倒リスクの軽減に繋がっています。ただ、一部介護ソフトとの連動に不具合がありメーカーと調整中です。

・覚醒に繋がる夜間のオムツ交換は、吸収量の多いパッドを使用し安眠を優先しています。

④ご家族や関係各機関、多職種の連携により支える

ご家族や関係各機関、施設内の多職種が密に連携し、日々の状態変化にいち早く気づき、適切な対応が出来る様に努めると共に、リスク管理に努め、安心、安全な環境を目指しています。

(2) 職員育成に向けて

①研修体系の充実

・全職員が認知症ケアの学びを深める為、段階に応じた内外の認知症研修に参加し、またそれを職員にフィードバックすることで、知識や対応力の向上に努めています。

・各職種がその専門性を高める為に、オンラインの活用も含めて内外の研修の機会を増やしています。

②人材の定着に向けて

・職員にとっても、居心地の良い雰囲気作りに努めてきたことが功を奏して、令和4年度は職員の離職が減少し、定着率の向上に繋がっています。

③人事考課制度の導入

・人事考課制度の導入を行い、職員のスキルアップに繋がる目標設定が組織の成果・評価に直結するよう評価制度を作成することで、個人の就労意欲が向上する様、制度の仕組みづくりを、専門家を交え、現場の声も尊重しながら取り組んでいるところです。

(3) 就労環境の向上

・人事考課制度の導入、研修体系の充実、成功体験の共有化等、自己のスキルアップや

労働意欲が向上するような環境整備により、働き甲斐を感じられる職場を目指しています。また諸制度を活用しながら、育児も介護も乗り越え、誰もが安心して、長く働き続けられる職場を目指して日々取り組んでいます。

・定時出勤、定時退勤により、ワークとライフが両立出来る様に努めています。

(3) 安定的経営基盤の確保

①特養の稼働率向上

・多職種と嘱託医等との連携をより密にし、ご入居者の健康管理の強化を図ると共に異常の早期発見に努め、重症化を防ぐことで入院者の減少を図っています。また、退居者発生後の新規入居者受け入れまでの空床期間の短縮に努めており、予定の稼働率となりました。

②ショートステイの稼働率向上

・毎月発行しているショート便りを持参して居宅支援事業所との連携を強化し、きめ細かく新規利用者の掘り起こしを図ってきた結果、令和4年度前半はコロナの影響で稼働率が低迷していましたが、後半は高い稼働率をキープ出来る様になりました。

・ご利用者がまた利用したいと思って下さるような楽しみの提供と接遇に努めています。併せて、ご利用者個々の思いや能力に沿ったケアの提供に努めています。

③経費削減に向けて

光熱水費、紙オムツ、消耗品等、少しでもロスを減らすよう、全職員で知恵を出し合い、協力して、無駄な経費を削減することで、経営の安定化を目指します。

(4) 地域との連携・貢献活動の推進

①特養待機者が200人を上回る中、地域貢献の一環として令和4年度から始まった30床の増床工事が順調に進められる様、地域との関係性に配慮しながら進めています。

②大きな地震等の災害が何時発生するか危惧されている中であって、地元自治会等と協力関係を締結する事は重要であり、積極的に進めたいと考えています。

3. 事業稼働実績 (令和5年3月31日現在)

事業名	定員	年間延利用者数	年間稼働率
特別養護老人ホーム	60名	21,240名	96.9%
短期入所生活介護	10名	3,013名	82.5%

4. 職員配置数 (令和5年3月31日現在)

正職員数	準職員数	派遣職員数 (その他含む)	合計
39名	17名	4名	60名

5. 施設整備等

離床センサーアンシエル (特養60ベット分)	8,327,000円
* 上記、滋賀県介護職員職場環境改善支援	5,737,000円